分裂的攪乱的行動を排撃せよ!!

金屬西支部聯合會の態度聲明に答へつゝ吾組合の態度を聲明す!

昭和四年七月二十二日

時代が指導的推定及嘲罵の上に立つてゐることを認め、之に對して左の如く、その眞相を發表し、吾組合としての態度を聲明することにした。

二

同支部聯合會はその發表せる聲明書中、今回の如き態度に出でたる主要なる理由として

一、本山茂貞、鈴木悦次郎君等が共産黨的左翼戰術を採つてゐる。

二、鐵心支部聯合會が規約違反である。

の二點を列記しくどくどしくその次第を述べてゐるが吾々は先づ順を追ふてそれに答へやう。

第一に、同支部聯合の幹部諸君は何を以つて本山君等の行動を共産黨的左翼戰術なりと言ふか?、彼等に依れば先づ『最近に於ける組合大會、聯合會大會に於ける祝辭、報告、討論の内容(例へば勞農總聯合、無産政黨合同無産團体協同委員會等の議案に對する同君等の賛成演説の内容)が共産黨的左翼戰術に心醉し』總同盟の根本運動方針たる現實主義に背反するのだと言ふのである。

然し、これ程組合員を侮辱した話はない、現に無産團体協同委員會の問題は本年度大阪聯合會大會に於いて本山君等の意見が大多數で可決確定してゐるのであつて、若し西支部聯合幹部諸君の言が正しとするならば全大會に於ける代議員の大部分が現實主義に背反してゐるか、若しくは無智のため盲目的に賛成したことになるではないか?

或程、毎大會に理論討爭はあつた、然し、それは各自の持つ政實主義に對する考へ方の相違から來たもので、此の理論討爭はその何れもが『現實主義に忠實ならんとする眞剣味の表れであつた』ことを吾々は今日尚確信するものである、若し故意に言葉尻をまげて云々することになれば、全支部聯合の幹部諸君や、全支部聯合の支持する人々の言ふことにも又現實主義背反なりと言はる、否故意にさうしなくても吾々は全支部及全支部支持の人々の言葉及行動に、眞に現實主義に背反なす多くの誤謬と階級的良心のまひを見るのである。

次に、同支部聯合の聲明書は、現在大阪聯合會内に於ける青年闘士の同好團体たる月曜會と本山君等と結びつけて言ふのである『それは本山君等が幹部排斥の機關として造つたものであり、而も秘密結社である』と、吾々は彼等のこの出鱈目な中傷に威服する。だが事實月曜會は決して左樣なものではない。『その中合せ』にもある如く、大阪聯合會の活動を活潑ならしむる(實踐)ためと、そのために現實主義の明確なる把握(研究)を目的として生れたもので、現に大阪聯合會に於いて常に日常闘爭の第一線に立つて戰つてゐる青年諸君の大部分は月曜會員である。尚、その發會に際しては非公式ながら現聯合會長山内君にも話してあるし、最近各支部へ通知して、會員募集の豫定があるとさへ聞く、嘗つて西尾君達等も讀書會と言ふ名の下に同じやうなものを造つたことがあるが、それは自然消滅になつたが、それがゆるされるなら、これもゆるされる筈だ。何を云つて幹部排斥の機關と言ひ、秘密結社なりと言ふか!

而も、當の本山、鈴木君等は會員でもなく全然月曜會に關係はないのである。

次に、彼等は最近金屬勞働組合理事會に起つた前田八谷両君に對する馬淵支部員の『プラトン萬年筆

處がその翌日、金正君は本山君宛に組合長辭任の通知を送つた。理由は『病身且不肖にしてその任に堪へず』と言ふのである。そこで組合では直ちに本部員會を招集すべきであつたが、然し、出來得べくんば問題を表面化しない中にと言ふ本山君の深慮から一應金正君に『留任して呉れるやう』頼み、更にそれが容れられぬので大矢省三君を介し二度も留任勸告をしたのであるが、これも拒絶されるに至つたので止むなく本部員會を開催し、金正君の辭任を承認後任に安井支部長手代木君を推選した。

同時に本部員中より意見が出で金正君の會計解任を滿場一致決定したのである。理由の大体は

一、會計の仕事は組合長以上に繁雑で骨の折れる仕事である。從つて、組合長の職に堪へられぬ人に會計をやつて貰ふことは結局、本人にも氣の毒であるし、且そのことのために間違が起るやうなことがあつても困ると言ふこと。

二、金正君は現在實際に於いて會計としての仕事をしてゐないと言ふ事實。

三、會計は有給(組合長は無給)であるが、組合としては仕事の出來ぬ者に手當を出す程の余融がないと言ふこと。

四、更にそれにも增して重要な理由は金正君が組合長を辭任すると共に、一組合員になつて彼等(組合常任)と喧嘩をするんだと言つた言葉から推定しての憂慮等であつた。

然し、金正君はその決定に從はず、組合長は辭めても會計は辭めぬ俺を會計から解任しやうと思へば臨時大會を開け』と居直つた。そこで組合としては何とか處理しなければと考へてゐる中に、市會議員選擧が行はれるに至つたので、一時此の問題の處理を差控へたのである。而るに選擧に引續いて、秋山ゴム、阪元ゴム、千代田木管、柿本製鏡、朝日木管大阪製壜所等の爭議の頻發のため組合常任が、西に東に多忙な職をつゞけてゐる、スキをネラフて金正君は他組合の長田塚本、西尾君等と協力し、本山君の除名其他の無理な問題を提起したのである。

斯樣に本山君對金正君の問題は徹頭徹尾金正君に依つて起されたものであつて、これを金屬勞働組合の問題と結びつけて云々することこそ、吾組合及本山君等を陷れんとする彼等の計畫的策動なりと言ふべきである。

三

第二の鐵心支部聯合の問題は他組合の問題なるが故に、これ又關れることを避けるが、要するに西支部聯合の幹部諸君及之と意見を同じうする一派は、本山君、鈴木君等を始め、今日大阪聯合會内に於いて常に日常闘爭の先頭に立つて戰ひ組合員の信頼厚き戰闘的分子を陷れやうとしたのである。而して彼等は形勢不利と見るや、西支部聯合をして脱退の豫告をなさしめ『これがため萬一聯合會が分裂するが如きことがあると云ふのならば分裂も止む得ぬ』と此の問題解決のために奔走してゐた大矢、山内の両君をオドカシ、両君が『若し紛爭の表面化が防止出來るやうだつたら僕等も大体のことは忍ばう』と言つたのを取つてもつて直ちに西尾、大矢、山内三名の立案なりと次の如き要求を聯合會執行委員會に提案したのである。

一、本山茂貞君ハ大阪聯合會ノ攪亂者トシテ、中央委員、合同勞働組合主事ヲ辭任セシメ、當

止むなきに至つた。

而るに、同執行委員會の模樣に就いては、絶對秘密嚴守と言ふことになつてゐたにも不拘、西支部聯合會はその翌々日に至り、突然前記の如き聲明書を發表し、事實に於て分裂的行動を開始したのである

四

『全組合員諸君!』事情は右の如くである彼等は、同聲明書の最后に於て『吾々は分裂主義者にあらず』としきりに辯解してゐるが、然し、問題は直接の上にあるのではなく行動の上にあるのである。現在吾組合及聯合會の戦闘的分子が多くの爭議を指導し、應援して或は資本家の奸策に、或は官憲の××、日夜血みどろの闘爭を續けてゐる最中に以上の紛爭を捲き起し、遂には暗打的行動に出でたる彼等の態度こそ、裏切的、分裂的行動と言はずして何ぞ!

彼等一派は今盛んに暗中飛躍を試み、流言逆宣傳を飛ばしてゐると聞く、例へば『西尾、大矢、三君の立案を支持せよ』と如何にも西尾君と大矢、山内君が同一行動を取つてゐるかの如く、又は『今回は紛爭は大工場と小工場との對立である』と。

然し諸君! 決つしてダマされてはならぬ。大矢山内君は既に西支部聯合幹部及その一派の執れる今回の行動が、分裂的、攪亂的であることを認め、去る二十二日連名して『光輝ある大阪聯合會を守れ』と題する聲明書を發表してゐる。

更に、吾々を以つて言はしむれば今回の紛爭は、小工場對大工場の對立ではなく、且つ闘爭するやつてゐる者とやつてゐない者との對立と言つてよい、現に大阪聯合會には五つの爭議、其他多くの個人的紛議があるが、一つでも彼等一派がそれに關係して戰つてゐるか! 彼等現在の戰ひは支配階級との戰ひではなくして、實に支配階級と戰つてゐる。現聯合會の戰手的分子に對する戰ひではないか!

全組合員諸君! 吾組合は現在四つの爭議を戰つてゐる。吾々は一々諸君に話る暇を持たない。彼等がどんな逆宣傳や流言を飛ばさうとも決つしてそれに惑はされざるやう氣を注けて欲しい。吾組合緊急擴大本部員會は、今回の聯合會内紛に就て、大阪聯合會の聲明書に準じ次の如き態度を決定した。

一、例へ如何なる形式を取らうとも聯合會に紛爭を惹起して闘爭力を分散せしめ、支配階級をして喜ばすが如き行動には絶對に反對である。

二、飽迄分裂的、攪亂的行動を排し、光輝ある大阪聯合會を死守する。

三、大阪聯合會現幹部(大矢、山内君等)は變更の要なし。

四、本山君の行動には現實主義背反、幹部排撃の事實なし、從つて同君に對する辭任强制又は除名には絶對に反對する。

以上

全組合員諸君! 更に繰り返す、吾組合今日までの一切行動は總同盟の根本指導方針たる現實主義に依つて一貫してゐる。階級的戰闘的、立場に依る行動である。特に今日の反動時代に當り少數攪亂者の策動を排して、飽迄吾組合並大阪聯合會の戰闘的傳統を守られんことを切望する。

◆光輝ある大阪聯合會を守れ!

◆分裂的攪亂的行動絶對反對!

日本勞働總同盟大阪合同勞働組合緊急擴大本部員會

發行人　此花區江成町貳參　津脇喜代男